

UNCOVERING

発見 大津町 Ozu town

Wow! CIR (国際交流員) オースティン・ハインライン

vol. 02 Etoke housing

11月から国際交流員としてオースティン・ハインラインさんが着任しました。これから日本の言葉や文化を勉強しながら、町の国際交流に努めていきます。もし見かけた際には、気軽にお声掛けください。

江藤家住宅(陣内)



町内にある江戸時代の「在御家人」の住宅でも、最も大型かつ古いものの一つで国指定重要文化財に指定されています。主屋は1830年に建てられ、その後、増築や修繕が行われてきました。現在は、熊本地震で被災したため復旧を行っています。



熊本地震での甚大な被害を受けながらも、歴史を保存しながら修繕しているところが素晴らしい。一般的なアメリカ人が思い浮かべる日本の建物は「畳」「旗」などが飾られた小さな家を想像します。しかし、ここは大きかった。アートが描かれた壁、かまどなど、どれも歴史が詰まっています。特に本場「日本庭園」は美しかったです。米国で有名なのは1758年に建てられた初代大統領邸です。日本とは様式が異なりますが、修繕や保存方法などの類似点も多く、興味深いです。米国にはあまり古い建物が残っていないので実物が見られて感激でした。

暖房器具や低温やけどに注意!

～冬場のやけどから子どもを守ろう～

予防しよう

- 電気ポットなど
ストーブ、電気ポット・ケトル、加湿器などの熱い蒸気でやけどする。
・暖房器具は安全柵で囲う。
・蒸気のでる器具は手の届かないところに。

湯たんぽ、電気カーペットなど

湯たんぽ、カイロ、電気カーペットなどが、長時間皮膚の同じ場所に接していると低温やけどを起こすことがある。
・子どもが寝たら湯たんぽ類は取り出し、カーペットの電源を切る。

お湯や熱いカップ麺など

テーブルクロスを引っ張って、高温の飲み物・カップ麺などをひっくり返し、やけどする。
・子どもの手の届かないところで調理する。
・テーブルクロスを使用しない。

冬場には子どものやけどが増えるのよね。やけどをしたら、まず冷やす。だけど、やけどの範囲や深さでも対応は違うし。

やけどの対処

流水等で痛みがなくなるまで十分に冷やすことが大切です。

- 範囲が小さく皮膚が赤くなった程度のやけど
まず流水で十分に冷やす。痛みがとれば清潔なガーゼなどでおおう。
- 低温やけどのとき
湯たんぽやカイロなど比較的低温のものに長時間触れたためにできたやけどは、小さくても皮膚の深くまで進行しているの、冷やしなから、すぐ病院へ。
- 範囲が広いとき・深いとき
氷を入れたビニール袋や冷たいタオルで冷やしなから、救急車で病院へ。

問い合わせ 役場健康保険課 母子保健係・健康推進係 ☎096(294)1075

わくわく子育て

子育て20

子育てイベントカレンダーで最新情報をゲットしよう!



子育てカフェ(月1回、無料)

電話で育児相談できます
保健師や児童発達の専門家などが対応します。お気軽に!
※電話は子育て支援課から相談室におつなぎします。

日時 2月18日(木) 10:00~12:00

協力 NPO 法人ペアレントネットワーク

役場子育て支援課 ☎096(293)5981

大津町地域おこし協力隊

地域おこし協力隊の活動を紹介していくコーナーです。今回は、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける中での、地域おこし協力隊の活動について話してもらいました。

家入隊員

川野隊員

コロナ禍、今しかできないことを

新型コロナウイルス感染症の感染拡大は収まる様子がなく、県独自の緊急事態宣言も発令されました。営業時間の短縮や不要不急の外出自粛など感染防止対策が求められ、協力隊もイベントなどは開催できません。今は耐え忍ぶ時かもしれませんが、この時間を無駄にせず今しかできないことをやらなければなりません。

変わりゆく社会

新型コロナウイルス感染症の影響で、社会は変わりつつあります。テイクアウトやオンライン決済の導入、テレワークやリモート会議など感染が拡大する前に比べると普及しているものは数多くあります。協力隊のイベントでも「大津よかとこチャレンジ」で、オンライン予約やクレジット決済を導入しました。参加者のうち全体の約半数がクレジット決済を活用する結果でした。このような設備などは、面倒だと導入を見送る人もいますが、利用する人は半数いるのだと実感しました。

協力隊が今やること

その中で今考える活動は、総合サイトの立ち上げと区長さんへの聞き取りです。総合サイトには、町内の業者や商品の紹介やイベント情報、情報誌、協力隊の体験動画などさまざまな情報を集約し、町内外の人に発信していきます。区長さんへの聞き取りは、今までも行っていますが新型コロナウイルス感染症が感染拡大し、寄り合いや区での活動を中止せざるを得ないなど各行政区での状況も今までは異なっています。区での課題も増えているかと思えます。そうした区の課題解消を地域おこしにどうつなげられるか検討していきます。社会のデジタル化が進み、どんどん便利になっています。ただ、直接会って話さなければならないこと、紙ならではの良さなどアナログなものもなくてはならないものです。全てをリモートやオンラインなどデジタルにしてしまえば、人とのつながりが薄れてしまいます。協力隊は、便利に変えるところは変えつつ、人とのつながりを大切にしていきます。

学校での取り組みなどをご紹介します

●問い合わせ 役場学校教育課 学務係 ☎096(293)3349

大津中学校の庭園を再建

大津中学校の庭園を、同中学校の卒業生を含む翔陽高校農業系列(園芸・造園)の生徒4人が再建しました。

大津中学校の庭園は、平成6年ごろに翔陽高校(当時産業高校)の造園工学科が造ったものです。近年は熊本地震で石灯籠が倒れたり、木々が生い茂ったりするなど再建が必要な状況でした。大津中学校PTA会長の内村さんが立ち上がり、翔陽高校農業系列(園芸・造園)の生徒が再建に尽力してくれました。翔陽高校の生徒は今までも、大津南小学校の庭園を手入れしてきました。今回は、昨年6月から庭園を訪れ、10月から庭石の移設や新しい竹垣の作成などが行われました。再建メンバーの中には、大津中学校の出身者もあり、卒業生の手で庭園は生まれ変わることができました。きれいになった庭園は、学校の顔として生徒たちや来訪者を迎え入れてくれることでしょう。今後も翔陽高校の農業系列(園芸・造園)の皆さんが手入れを行ってくださいます。ご協力いただいた皆さんありがとうございました。

改装中



木や飛び石などは残しました

改装後



竹垣も作りました

改装後



立派な庭園が出来上がりました